

里山を歩いてみよう！

1 ちいきこうりゅうかん おのぶんこう 地域交流館「小野分校」



里山の自然や文化を紹介する展示室や木工クラフトなどができる工作室があります。入園ゲートも兼ねています。かつての「小野分校」があった場所に建てられたことからその名前を引き継ぎ「小野分校」と名付けました。

2 みずべ ひろば びっきの水辺・ひろば



東北地方ではカエルのことを『びっき』と呼びます。この一帯の湿地はかつては田んぼでした。林や湧水等、いろいろな環境に囲まれ、ビッキをはじめ、たくさんの生き物が観察できます。

3 りゅうきんかの谷



早春の枯れ葉の色の湿地の中に鮮やかな黄金色のりゅうきんか（立金花）をたくさん咲かせます。さまざまな湿地の野草を観察することができます。



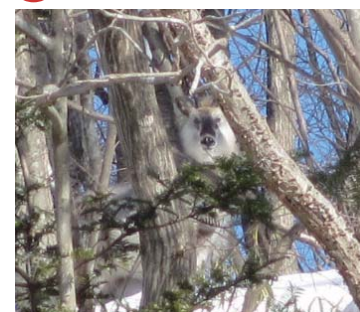
- ### 里山歩きの注意
- スニーカーやトレッキングシューズ、長靴などを履きましょう。サンダルやハイヒールは危険です。
 - 虫に刺されないよう、長袖、長ズボンを着て、肌を出さないようにしましょう。
 - ハチやヘビに注意しましょう。
 - 園路は勾配があって、舗装されていません。休み休み散策しましょう。

4 もりがっこう 森の楽校



樹林を伐採して、その材を使い、手作りで作ったツリーハウスや炭焼き窯などがあります。予約制で里山冒険遊びや飯盒炊飯などできます。

5 ひろば しのぞき・しの広場



川崎町では昔、カモシカが沢山住んでいて、「アオ」、「アオシシ」、「シシ」などと呼ばれていました。カモシカが出没する崖地の切通しと広場です。今も、カモシカの親子が里山に住んでいます。運がいいと、じっとこちらを覗いているところに出会えるかも。

6 いげ さんしょうおの池



日本の固有種で、東北地方を主な生息地としているトウホクサンショウウオが産卵する池です。いろいろな水生生物も観察することができます。

7 ばし ゆいっこ橋



里山地区と北地区（風の草原）をつなぐ北川にかかる橋です。東北地方の方言で、「結ぶ」「協力する」ことを「ゆい」と呼ぶことから名付けました。ゆいっこ橋へは長い階段で降ります。

里山タイムスリップ！

「里山地区」は、かつての暮らしの中で里山として利用されてきた面影が今も残っています。ちょっと気に歩いてみると、いろいろな里山の面影が見つかります。あなたはいくつ見つけれられたかな？



い あたご もり 愛宕の杜

★写真は当時の杜です。

愛宕社は外敵から守る神が宿る社。これらの神が宿る山ということから、この一帯は愛宕山と呼ばれています。お社は移転しましたが、往時の参道の石段が残っています。



ろ だんだん畑

かつての段々畑の跡で、平坦部が残っています。今ではスギ混じりの竹林になっています。



は たなだ いけ 棚田・ため池

ため池の跡地には堰堤のなごりがあり、水が溜まっています。この先には小さな棚田がありました。



に きょうかいぼく 境界木

山の所有の境を示すために、スギ林の中に直線状にヒノキが植えられています。



ほ さと みち 里道

集落があった風下側の南側と、土地の肥えた北側の三作を結ぶため、尾根筋や谷間には里道跡があります。



へ ぼうくう 防空壕跡

戦争の時に使われていた防空壕が残っています。

昔ながらの名前

「やまっぱたけ」とは、かつてここにあった桑畑の名前です。「やまっぱたけの道」は、小野地区に住む人が桑畑に行くために利用していた道でした。

釜房湖側の河岸段丘は土地が肥えていて、「三作（みづくり）」と呼ばれる豊かな畑でした。そこに至る道は「みづくり馬道」と呼ばれていたそうです。

皆伐更新の後に木の根元から出てくる『ひこばえ』のことです。里山の林を新しい林に再生させるために木を伐採することを皆伐更新と言います。

切り出した材木を一時的に集めておく場所のことです。里山で切り出した材木は馬で運ばれていました。